

研究施設（石狩吹雪実験場，苫小牧寒地試験道路，実道での実験・観測）



▲ 石狩吹雪実験場



▲ 苫小牧寒地試験道路の全景 (左) とすべり試験車実験 (右)

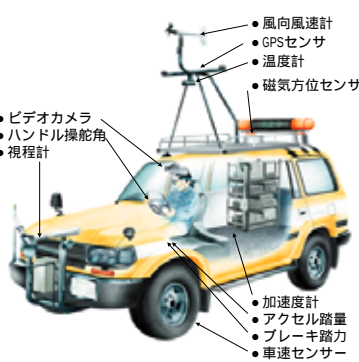


▲ 路側情報提供サービスの実道実験 (337号当別町)



▲ 実道での吹雪観測 (230号中山峠、275号角山)

研究機器（視程障害移動観測車，アイマークカメラなど）



▲ 視程障害移動観測車



▲ 障害物回避行動に関する走行実験



▲ 高齢者の運転挙動実験 (上)
アイカメラによる視線挙動実験 (下)



研究環境（技術指導，情報発信，国際交流など）



▲ 地域雪氷防災セミナーの開催



▲ インターネットでの情報発信（メールニュース配信やメーリングリスト運営等）



▲ PIARC国際冬期道路会議2002札幌大会
（北海道ブースの展示状況）

お問い合わせ



独立行政法人 北海道開発土木研究所
道路部 防災雪氷研究室
〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1番34号
TEL : 011-841-1746 FAX : 011-841-9747
E-mail snow@ceri.go.jp Homepage http://www2.ceri.go.jp

2005.10

道路吹雪対策と研究の歩み

明日の北国のモビリティのために
独立行政法人 北海道開発土木研究所



北海道や東北のような積雪寒冷地域では、吹雪対策の充実が冬期道路交通の確保や安全性向上を図る上で、長年にわたっての重要課題でした。ここでは、時代のニーズに応じて変化してきた道路吹雪対策と研究の歩みをご紹介します。

道路吹雪対策の目的と重要性

吹雪による吹きだまり

吹雪・地吹雪により、降・積雪は飛雪となり大量に運ばれて、短時間に道路を埋め尽くしてしまいます。この吹きだまりは、車両の走行を困難にするばかりでなく、除雪の大きな妨げにもなります。



▲ 道路を埋め尽くした吹きだまり
（1974年旧国道238号網走平和）



▲ 吹きだまりに埋もれた車両
（2004年北見豪雪～北海道開発局）

吹雪による視程障害

吹雪・地吹雪により道路上を移動する飛雪は、ドライバーの視界を遮り、深刻な視程障害を引き起こします。特に、視点位置の低い小型車はその影響を大きく受けます。さらに近年では大型車が巻き上げる雪煙も問題です。



▲ 地吹雪による視程障害



▲ 大型車が巻き上げる雪煙

吹雪時の多重衝突事故

滑りやすい雪氷路面に加えて、吹雪による視程障害はしばしば交通事故を引き起こします。特に、前方で停止している車両の発見が遅れることにより、次々と車両が衝突する多重衝突事故に拡大する恐れが高まります。

このような多重衝突事故は、通行規制の影響も長引き、地域の社会生活に多大な影響を及ぼします。



▲ 吹雪時の視程障害による多重衝突事故と新聞報道記事

